

公式試合記録



公益社団法人 日本ホッケー協会

大会名 第90回 全日本男子ホッケー選手権大会

試合番号 15 備考 決勝 年 平成 28 月 12 日 24 時間 11:00 場所 立命館ホリーズスタジアム ピッチ 人工芝(W)

チーム名

天理大学

試合	2	-	1
前半	1Q	0	- 1
	2Q	0	- 0
後半	3Q	1	- 0
	4Q	1	- 0

チーム名

VERTEXホッケーチーム

	先発	背番号	氏名	G	Y	R
1	✓	1 GK	吉川 貴史			
2	✓	2	山田 翔太			
3	✓	3	稲山 巧			
4	✓	4	新井 稜			
5	✓	5	中村 新樹			
6	50	6	糸原 信行			
7	✓	7	田中 海渡			
8	✓	8	和久利 裕貴			
9	✓	9 C	山水 翼瑠	37		
10	✓	10	福田 健太郎			
11	8	12	金藤 直人			
12	✓	13	山口 滉大			
13		14	山本 悠太			
14	6	15	石橋 諒			
15	4	16	山川 賢太			
16	✓	20	落合 晴輝			
17	6	26	瀧上 諒大			
18	6	27	石原 大誠			

	先発	背番号	氏名	G	Y	R
1	✓	1	藤本 一平			
2	✓	3 C	粥川 幸司			
3	✓	4	山部 晃嗣			
4	✓	5	柳本 主貴			
5	4	7	大門 美生			
6	✓	8	井島 光希			
7	4	9	津田 稜大			
8	✓	10	中山 康大			
9	✓	11	佐々木 拓郎			
10	✓	12	吉原 平太			
11	✓	13	山下 学			
12	✓	14	長澤 克好	43		
13	4	15	松本 謙人			
14	4	16	中村 航司			
15	✓	18 GK	新本 優			
16		19 GK	千原 健史			
17	7	20	羽田 康佑			
18	7	21	竹中 康悦			

時間	No.	種	時間	No.	種	時間	No.	種	時間	No.	種	時間	No.	種	時間	No.	種
43	8	FG										3	11	PC			
51	13	FG															

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	順番	守備者	先・後	SO戦	先・後	守備者	順番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
										No.						No.										
										O/X						O/X										

5	4	3	2	1	SO戦	6	5	4	3	2	1	チャレンジ権	1	2	3	4	5	6	SO戦	1	2	3	4	5
												O/X												

監督	穴井 善博	穴井 善博
アンパイア	近藤 聡史	近藤 聡史
Rアンパイア	藤原 信幸	藤原 信幸
ジャッジ	一谷 寛	一谷 寛
ジャッジ	久木 寿一	久木 寿一
ジャッジ	光田 清治	光田 清治

監督	粥川 幸司	粥川 幸司
アンパイア	児玉 茂樹	児玉 茂樹
Sアンパイア	高橋 英行	高橋 英行
Sアンパイア	野澤 達	野澤 達
T O	平尾 豊	平尾 豊
特記事項		

天理大学 2 $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -0 \\ 1 & -0 \\ 1 & -0 \end{pmatrix}$ 1 VERTEXホッケーチーム

得点	天理大学→43分和久利、51分山口		
	VERTEX→3分佐々木		
戦評	<p>第90回全日本男子ホッケー選手権大会決勝戦が、クリスマスムードの寒空の下、天理大学のセンターパスによって開始された。</p> <p>第1Q開始から両チームは激しいボールの奪い合いを展開する。VERTEXは3分、ベースラインへのボールが繋がりに、PCを獲得した。これを、#11佐々木がスウィープでゴール左隅にしっかり決め、早々に先制点を挙げた。早めに追い付きたい天理大学は厳しいプレスを仕掛ける。対するVERTEXも巧みなパス回しやスクープでの展開を試みる。徐々にペースを掴んできた天理大学は、11分、右サイドからバックライン際をドリブルで切り込み、PCを獲得したが、惜しくもシュートはゴール左に外れた。その後はVERTEXが押す展開となるが、スコアは動かず、VERTEXのリードで第2Qへと突入した。</p> <p>第2Qは開始から天理大学が押す展開となり、21分サークル内での混戦から天理大学は連続して2本のPCを獲得した。どちらも#2山田がフリックを放つが、これらをVERTEXのGK#18新本が防ぎ、同点を許さない。勢いが出てきた天理大学は攻め続け、26分#9山水のドリブルから左サイドを崩し、PCを獲得したが、得点に繋げることができず、決めきれない時間が続く。VERTEXは守備の時間帯が多いものの、#3粥川を中心としたDF陣が集中力を保ち、天理大学の攻撃を堅い守備で受け止める。スコアは変わらず1-0とVERTEXがリードしたまま、試合は後半戦へ。</p> <p>第3QはVERTEXのセンターパスで開始され、両チーム攻守の切り替わりが激しい展開となった。その中で、天理大学は39分に左ベースラインからサークルインし、PCを獲得した。フリックシュートはゴール左上隅に決まったかと思われたが、これをVERTEXはGK#18新本によるスーパーセーブでゴールを死守した。このプレーで息を吹き返したVERTEXは、一転して攻勢に出る。第3Q終盤に立て続けにチャンスを作り、シュートを放つも、ここは天理大学GK#1吉川がしっかりと防いだ。ここから再び天理大学が攻め込む展開となり、43分に右からバックラインからドリブルでサークルイン。折り返しのボールにGKが反応しスティックで弾くもそのボールは流れ、それを天理大学#8和久利がダイレクトで押し込み、遂に同点に追い付いた。ここで第3Qは終了し、同点のまま試合は最終第4Qへと進んだ。</p> <p>第4Qに入り、勝ち越したいVERTEXは#1藤本のダイレクトシュートなど攻めて崩す形を作るも、天理大学のDF陣も集中力を切らさず守り続け、VERTEXは決めきれない状況が続く。そして51分、天理大学は25ヤードエリア左から打ち込んだボールがグループボールとなりそのままゴールインし、思わぬ形での勝ち越しとなった。試合が終盤に差し掛かり、日本一のタイトルを懸けた両チームの試合は、さらに激しさを増していく。このまま学生に負けられないVERTEXは意地の猛攻を仕掛ける。幾度もサークルインし、度重なるチャンスを作ったが、FB#2山田・GK#1吉川を中心とする天理大学のDF陣が決死の守りでゴールを守り切り、試合終了のホーンの音が天理大学の2年連続日本一を祝福するかのようにピッチ上に鳴り響いた。</p>		
TO	平尾 豊	アンパイア	近藤 聡史
ジャッジ	一谷 寛		児玉 茂樹